

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター板屋  
担当圏域レベル）開催報告書**

<b>1 開催日時</b>	令和 7 年 7 月 17 日（木） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
<b>2 開催場所</b>	浜松市福祉交流センター ギャラリー43.44
<b>3 参加者</b>	32 名 委員22名、関係機関10名
<b>4 協議の内容</b>	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 板屋圏域生活支援体制づくり協議体会長</p> <p>3. 自己紹介 新任のみ</p> <p>4. 協議内容</p> <p>① 生活支援体制づくり協議体とは 板屋圏域 CSW より、生活支援体制づくり協議体の概要を説明した。</p> <p>② 各地区の現状/昨年度の会議内容の共有 各地区の人口、世帯数、高齢化率、単身高齢者数の共有、 また、昨年度までの「認知症」に関する情報提供や取り組みの振り返りを行った。</p> <p>③ 前回以降の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅南地区砂山町 「認知症講座」 昨年度の協議体会議グループワークでの協議を発端とし、砂山町シニアクラブ主催で「認知症講座」を開催。砂山町の住民を中心とした36名が参加。“認知症について”、“今日からできる認知症予防のリズム体操”についての話がされた。</li> <li>・ 駅南地区砂山町 「狐のあそび場」 今年5月に砂山町公会堂にて新規サロン「狐のあそび場」の初回が開催。初回には、立ち上げに至った思いが共有され、その後体操、お茶会の時間がつくられた。会の参加者からは、『地域の人と関わりたくてもその機会がなかった』『地域で健康に関する講座があれば今後も参加したい』との声があった。</li> </ul> <p>④ 地域からの相談事例</p> <p>【浜松市社会福祉協議会 浜松地区センター CSW】</p> <p>(1) 60代男性：傾聴ボランティアを探している。 娘世帯と同居しているが、日中話をする人がいない。直接でも電話でも良いが、1回30分～1時間くらいお話をしてくれる人はいないか。</p> <p>(2) 90代女性：ゴミ出し支援をしてくれる人はいないか。 本人と夫の二人世帯。本人は要介護4であるため、家事のほとんどを夫が担っている。入院してしまったため、ゴミ出しを手伝ってほしい。</p>

#### 【地域包括支援センター 板屋】

(1) 84歳男性：引きこもりがちな生活となり不安（娘より相談）

今年に入り、ずっと遊び仲間だったAさんが逝去、Bさんが長女夫婦の暮らす他県へ移ってしまった。それ以来、元気もなく、話し相手もなく、やることもなく過ごしている。

(2) 80歳女性：ゴミ出しの支援について

本人は腰を痛めてしまい、先月からコルセットの生活となっている。長男夫婦が買い物や洗濯、食事準備は手伝えるが、朝のゴミ出しなどの支援は難しい。ゴミ出しを手伝ってくれる人はいないか。

#### 4. グループワーク

「地域の身近な困りごと」をテーマにグループワークを実施し意見交換を行った。

##### ①買い物・通院

- ・中央：交通の便が良い街中のため、困ることはない。  
買い物に行くことができなくても今は届けてくれる。
- ・駅南：砂山町は横田マート周辺に買い物できる場所があるため、あまり困ってはいない。  
周辺にコンビニがあり、日頃の買い物からコンビニを利用している。  
龍禅寺には移動スーパーとくし丸が来ている。  
公会堂まで行くことが難しい人はいる。
- ・江東：近隣にスーパーがあるため、買い物に困っているという声はあまり聞かないが、買い物、通院等でタクシー利用している人もいる。遠くまでの通院等家事支援で対応できないケースについては、民間サービス(キャンナス)等を紹介している。
- ・アクト：八幡町で移動の不便について声をあげる人はいない。

##### ②ゴミ出し

- ・中央：ゴミ出しが大変という話はあまりない。
- ・駅南：高齢によりゴミ出し当番が出来ない方がいる。実態は自治会長が補助。
- ・江東：ゴミ出しについて困っているが周囲に言わない/言えない人はいるのでないか。  
江東地区では家事支援で民生委員がゴミ出し、見守りを行っている。家事支援でなくとも地域・近所で手伝うことはできるが、声がかからない。
- ・アクト：住民同士で助け合いができていますが、担いきれない場合に相談がある。

##### ③担い手不足

- ・中央：シニアクラブの会長が9歳の会もある。周囲に声をかけているが、次のなり手が見つかっていないため、存続できない可能性もある。自治会含めどの組織も同じで次の担い手がいらない。  
→住民が少ないこと、若者をどう巻き込んでいくかが課題。
- ・駅南：シニアクラブは後任がいるが、民生委員のなり手△、自治会は高齢化。男性が地域活動に出てこない。

→若い人がボランティア活動を

- ・江東：担い手不足により、今年度地区社協の家事支援メニューを絞った。地区社協活動に民生委員の協力が得られないこともある。ボランティアが減っていて、民生委員のなり手も少ない。  
→地区社協に対する理解不足の課題もある。担い手が増えれば活動も広がると思う。
- ・アクト：地域の今後を担っていく人材が不足気味。  
コミュニティの場の立ち上げについて要望があるが、主体になる人がいない。地域の役割のある人の負担が大きい。

#### ④ 集いの場、交流

- ・中央：地区の1～2人で行っている地域の活動もある。  
買取（分譲）マンションの方たちも祭りを含め参加してくれているため、世代間交流はある。浜松まつり、神社のまつりが地域のつながりのきっかけとなっている。街中に少し休めるベンチやトイレがあるといいと思う。
- ・駅南：講座や公会堂が集いの場になる。日常的にコミュニケーションをとることが大事だと思う。シニアクラブに出てくる人は困っていないように感じるが、会員家族に連絡し、メンバーのサポートをすることもある。
- ・江東：男の集い場「酒遊会」を開催している。夕方の草刈り＋お酒を一杯一緒に飲むことで、地域のつながりが出来ている。  
また、中島町では「おにぎりづくりの会」があり、浜松まつりの日に区内の男性がおにぎりを振る舞う。災害時誰でも炊き出し、おにぎりを握れるようにという防災の意味もある。
- ・アクト：中部協働センター（クリエート）はコミュニティの場として活用されている。シニアクラブでは手品、健康体操、バス旅行（去年はヤマハ展示場）を計画。  
→出向きたくなるメリット、楽しみを見つけてもらうことが必要。

#### ⑤ 孤立

- ・中央：本人に孤立、問題の自覚がないことが課題。そのような方は活動に誘っても参加されないため、見守りしかない。大工町では毎年冬に若宮神社にて餅つきを開催。当日参加されなかった高齢者には、見守りも兼ねてお餅を配っている。
- ・駅南：孤立が理由で単身世帯の方を亡くなったと勘違いした事例があった。  
シニアクラブを退会すると疎遠になり、生活の様子がわからなくなる。妻を亡くした方の中には食事の支度できない方もいるが、他人を家に入れたくないという思いのある方もいる。公営住宅等では配食を使う人が多い。新しい住民には、自治会に入らない方もいる。
- ・江東：家事支援の「話し相手」はボラコーナーに来てもらって実施している。  
個人的な部分には入れないこともあるが、「困っている」と言える関係づくりが必要だと思う。  
シニアクラブには、なかなか会への参加ができない90代の方がいるが、つながりを持ち続けるために訪問等をしている。  
毎朝玄関に黄色のハンカチを掲げ、安否確認する地区があると聞いた。  
見守りに町内で行ってみるのはどうかと考えている。

- ・アクト：マンションが増え、昔のように気軽に家に入りにくい。住民の顔がわからないこともある。マンションは特に壁があり、昔のような関係が築けない。地域の活動に参加してくれればと思う。  
また、近所の噂話が気軽にできない個人情報の壁がある。認知症、高齢者世帯が声を上げやすい地域にしていかなければならない。

#### その他

- ・中央：交通の便が良いため困りごとはあまりない。  
高齢者は人に頼らず、お金で解決。
- ・駅南：元民生委員仲間に物盗られ妄想があったり、シニアクラブの会員にも認知症の方がいたり、認知症の方が増えている。
- ・江東：地区社協のゴミ出しの支援を「ごみ当番」の支援と思う人もいた。  
人数を気にせず存在し続けることも大切。
- ・アクト：お祭り好きでやるときはやる！  
悩み事を誰が解決してくれるのかについては、地域に機関の役割が周知されておらず、十分に機能していないと感じる。

#### 5. 連絡事項

- ・常盤町 訪問パートナーときわ薬局の事業について

#### 6. 閉会 板屋圏域生活支援体制づくり協議体副会長

### 5 今後の見通し・ 必要な対応

板屋圏域は買い物資源が豊富であること、公共交通機関も充足していることから、買い物や通院についての困り感はあまりないことがわかった。

また、この地域は「まつり」をキーワードに活動が生まれ、地域とつながりをもつことができている。しかし、街中はマンションが増え、近年は自治会に入らない世帯も増えていることから、①地区社協やシニアクラブ等の活動をどのように住民に周知していくか、②次の担い手、若者を地域活動にどう巻き込んでいくかが4地区の共通課題だと考えられる。

板屋圏域には企業や学校など地域の社会資源がとても多い。地域に住む人だけではなく、この行き交う人々・集う人々を巻き込み、様々な地域活動者の知恵を参考にしながら①②について検討していく。